

2024年度 消費生活アドバイザー資格試験

論文試験問題

1. 制限時間 60分
2. 制限字数 800字以内(ただし600字以上
記述することが望ましい)

(2024年12月8日実施)

消費生活アドバイザー資格試験は、消費生活相談員資格試験を兼ねて実施します。

(受験上の注意)

- 受験中は、受験票および写真付身分証明書を必ず机上に出しておいて下さい。
- 受験中は、携帯電話、スマートフォン、スマートウォッチ等の通信機器の電源を必ず切って下さい。
- 筆記用具はHB以上の鉛筆またはシャープペンシルを用い、濃くはっきりとした文字で記入して下さい。
文字の修正には、消しゴムを使用して下さい。
- 参考書・電卓等、3.で記載の筆記用具以外の使用を禁じます。
筆箱等のケース類も机上に置かないで下さい。
- 論文試験用紙に受験番号と氏名を必ず記入して下さい。
- 選択した論題番号(1~3)を必ず論文試験用紙の論題番号欄にご記入下さい。
- 試験内容に関する質問には一切お答えいたしません。
- 途中退出する場合は、論文試験用紙を試験監督員に提出して静かに退席して下さい。

一般財団法人日本産業協会

【禁無断転載】

次の論題3題（1～3）の中から1題を選択して記述しなさい。

選択した論題番号は論文試験用紙の論題番号欄に記入しなさい。

(論題番号)



<消費者問題>

1. 近年、消費者を取り巻く取引環境が大きく変化し、様々な消費者被害が生じている。以下の2点について論じなさい。
 - (1) 最近のデジタル社会の進展によって生じた消費者被害を3つあげ、それらの概要と問題点
 - (2) 今後それらの被害を解決するために必要な消費者、行政、企業のそれぞれの対応策

<法律>

2. インターネット上の広告表示について、①消費者の視点から問題となる状況について具体例を挙げて紹介するとともに、②現在の法律における広告表示の規制の概要について、近時の改正にも触れて説明し、③残された課題について論じなさい。

<企業経営>

3. S D G sを踏まえた企業経営が求められる中で、とりわけ近年、サステナビリティに関する「情報開示（ディスクロージャー）」を推進する動きが盛んになってきている。この点を踏まえ、以下の2つについて論じなさい。
 - (1) 企業が情報開示を行う意義を説明しなさい。また、特にサステナビリティに関する情報開示を積極的に行うようになってきた背景を説明しなさい。
 - (2) サステナビリティに関する情報開示に関して、企業が抱える課題について指摘した上で、それを克服するために、どのような取り組みを推進すべきかについて、経営陣のみならず従業員にも着目しながら論じなさい。

(×モ欄)

